

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：82512

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01019

研究課題名（和文）紛争地域の史資料保存のための基礎的研究：イラクの新聞保存を事例に

研究課題名（英文）A research for preservation of historical materials for the conflict areas : a case study of preservation of Iraqi newspapers

研究代表者

高橋 理枝 (TAKAHSHI, Rie)

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・学術情報センター図書館情報課・課長

研究者番号：00534877

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトでは、フセイン政権時代のイラクの新聞を取りあげ、紛争地域の史資料を当該地域外の図書館において保存し利用可能とする効果的な方法について考察した。イラクの新聞について各地の図書館の所蔵状況を確認した結果、アジア経済研究所図書館のイラク新聞コレクションは、世界的にも貴重なコレクションであることが判明した。このコレクションを長期的に保存し利用可能とするために、マイクロフィルム化と電子化の効用の比較検討と各紙の資料評価を行い、その結果に基づき各タイトルに相応しい保存対策を施した。またCiNii Booksへの書誌登録と資料情報の発信を通して、広範な利用者にとこれら新聞の情報入手を可能とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本プロジェクトにおいて、(1)フセイン政権時代の、特にイラクの反体制派の新聞は、団体数も多く発行地も世界各地に及ぶため把握が難しいが、世界の主な図書館における所蔵状況を含め、それらを明らかにしたこと、また(2)各紙の適切な資料保存対策について比較検討し、実際に世界的にも貴重なコレクションの保全を図ったこと、加えて(3)書誌の総合目録への搭載などによる資料情報の発信を通して、広範な利用者にとこれら新聞の利用可能性を示したことは、学術的にも社会的にも大きな意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this project, we studied on effective methods for preservation of historical materials for conflict areas. As a case study, we searched holding information of Iraqi newspapers during the Hussein administration worldwide. As a result, we found that IDE Library has a valuable collection in the world. In order to preserve them and make available for the public, we compared merits and demerits of microfilming and digitization, and evaluated the materials, then took appropriate preservation measures for each title. We also registered their bibliography in CiNii Books and will post their information on the web. It informs the availability of these newspapers to a wide range of users.

研究分野：地域研究

キーワード：資料保存 イラク 新聞

1. 研究開始当初の背景

(1) 暴力と戦火が蔓延する紛争地域では、史資料を保存する図書館・文書館が爆撃や放火の被害に遭い蔵書を焼失したり、貴重書が略奪される事態が続いている。本プロジェクトで取り上げたイラクでも、2003年のイラク戦争やイラク北部に拠点を確立した「イスラーム国 (IS)」により、多くの資料が失われる事態となった。

(2) ブルーシールド国際委員会 (国際図書館連盟、国際文書館評議会、国際博物館会議、国際記念物遺跡会議で構成される国際組織)、ユネスコや米国議会図書館 (Library of Congress、LC) をはじめ、国際的にはイラクの図書館復興と資料保存に対する努力が続けられていたが、政情不安が続くイラクではテロの応酬が続き、インフラや人材の不足等、多くの課題が山積したままであった。また国外の研究者は治安上の理由で入国が制限されることも多く、現在に至るまで現地の資料は利用不可能な状況にある。

2. 研究の目的

イラクの事例から考えても、史資料滅失の原因となる武力紛争が続く状況下では、現地の図書館の復興やそこでの資料保存には限界があり、現地以外の図書館に存在する戦火を逃れた資料を保存し公開することも、重要な課題と考えられる。そこで本プロジェクトでは、紛争地域の史資料を保全し、将来にわたり学術研究および紛争地域の復興に活用するため、当該地域外の図書館における可能かつ効果的な貢献方法について明らかにすることを目的とした。

事例としては、文化財保護に関して国際的に高い関心が寄せられているイラクの資料の中から、フセイン政権時代のイラクの新聞を取りあげた。新聞は一次資料として資料価値が高く、また公文書等に比べてイラク国外でも所蔵されている場合が多いため、それらを保存することで現地図書館における資料の滅失を補完できること、またフセイン政権時代の新聞はその多くが紙形態で刊行され、滅失のリスクがより高いと考えられたためである。

3. 研究の方法

上記目的のため、具体的には下記の3点を実施した。また実施に当たっては、図書館における保存・管理と、研究者による利用という二つの観点から検討を行うため、ライブラリアンと研究者がそれぞれの知見を活かして協同することとした。

- (1) 世界に散逸しているフセイン政権時代の新聞について、その所在と利用可能性について調査した。フセイン政権時代に刊行された新聞については、イラク国内だけでなく、国外の反体制派の刊行した新聞も調査対象に含めた。イラク国内で刊行される新聞には官製の情報しか載らないため、イラク研究において、世界各地で発行される反体制派のメディアは重要な情報源となってきた。本プロジェクトでは、それらを含めて、フセイン政権時代に刊行された新聞の全容を把握することを目指した。
- (2) 新聞各紙の性格 (発行地、発行者とフセイン政権との関係性等) を明らかにし、資料評価を行った。上述のように、言論の自由が統制されていた権威主義体制下にあるイラク国内と、政権の統制が及ばない国外とではメディアに掲載される内容が大きく異なる。また発行者とフセイン政権との関係性も同様に記事の論調を決める大きな要素となる。加えて、こうした新聞各紙の性格や背景は、その資料の保存状況 (国内外の図書館で収集され蔵書とされるか) にも影響を及ぼす。以上から、資料の性格と保存状況の関係性について考察するとともに、保存対策を施す優先順位の検討材料とした。
- (3) 紛争地域で資料が散逸しても、国外の図書館に所蔵されている新聞の長期的な保存と利用を確実にするため、アジア経済研究所図書館 (以下、アジ研図書館) の所蔵新聞を事例に、効果的な保存対策と利用者への提供方法について検討、実施した。アジ研図書館は、日本国内では国会図書館を除き、ほぼ唯一イラクの新聞をまとめて所蔵している図書館である。この事例研究により、新聞という媒体に適した保存対策、利用者への提供方法を明らかにすることを考えた。
- (4) なおアジ研図書館所蔵のイラク新聞に関する情報と、新聞各紙の所在と利用可能性、および資料評価の調査結果は、ウェブサイトを通じて発信し、より広範な利用へと道を開くことを目指した。

4. 研究成果

(1) フセイン政権時代のイラク関連新聞のタイトルの把握と所蔵調査

フセイン政権時代にどのような新聞がどこで誰によって刊行されてきたのかを、イラクに関する研究書や、新聞やメディア関連の資料から調査を行った。調査の過程で判明したクルド語の新聞については言語の関係で、調査の対象外とせざるを得なかったが、最終的に約20紙の情報を収集することができた。アジ研図書館で所蔵しているタイトルを手掛かりに、原紙、書誌情報と反体制派の活動などに関する資料を丹念に調査することで、かなりの範囲をカバーできた。

のと考えている。

世界の主要な図書館におけるこれらの新聞の所蔵状況については、各図書館の OPAC (オンライン蔵書カタログ) を用いて調査を進めた。調査の対象としたのは、米国議会図書館、アメリカの研究図書館センター (Center for Research Libraries、CRL)、大英図書館 (The British Library)、WorldCat (世界中の 10,000 以上の図書館が参加する世界最大の図書館共同オンライン・カタログ)、エジプトのアレキサンドリア図書館 (Bibliotheca Alexandrina) である。

調査の結果、最も多くの新聞を所蔵しているのはアメリカ議会図書館であることがわかった。次いで所蔵が多いのは大英図書館だが、書誌の詳細がない場合もあり同定できないものも複数あった。CRL は所蔵タイトル自体は多くないものの、所蔵資料の一部は電子化してウェブサイトで公開していることがわかった。他方、アジ研図書館には、サッダーム・フセイン元大統領の息子ウダイが主宰した新聞バービル (Babil) をはじめ、議会図書館を含め他では全く所蔵されていない新聞や、所蔵されていない巻号などがあり、世界的にも貴重なコレクションであることが判明した。アジ研図書館が所蔵する新聞は、研究者が現地で発行者から直接入手したのも多く、そうした収集方法が他の図書館のコレクションとの違いを生んでいると考えられ、その希少性が今回改めて浮き彫りとなった。

(2) 資料保存対策の実施

効果的な保存対策については、原紙のまま保存、マイクロフィルム化、電子化、の選択肢を検討した。の場合は、酸性紙は劣化を免れないこと、また特に大判の新聞は利用の度に破損の可能性があることが問題と考えられた。そのため、のマイクロフィルム化と の電子化のメリット・デメリットについて、詳しく検討した。

結果、技術的に確立されているマイクロフィルム化の方が長期にわたる保存に耐え、また費用も安い、電子化の上 OCR (Optical Character Recognition/Reader、光学的文字認識) によるテキスト化を行う方が、新聞記事の検索やテキスト分析が可能となるため、研究の利便性を高めることが判明した。

アラビア語 OCR については、無料版有料版の様々なソフトでテストを行った。新聞の紙面は、通常の文書とは異なり、写真を含めブロック化された記事の流れを正確にとらえる必要があり、OCR ソフトで自動で正しく読み込めたものはなかった。本プロジェクトでは、予算の限界もあるため、デジタル化への媒体変換の際には OCR はかけず、テキスト化は将来の課題とすることとした。

上記の状況、および利用者の利便性を鑑み、既存のバックナンバーがマイクロフィルム化されているものについては、マイクロフィルム化による保存対策を施した。また日刊紙で所蔵部数が多いものについても、コマ単価の安いマイクロフィルム化を行うことで経費を節約し、なるべく多くの新聞に保存対策を施すこととした。

一方、原紙からのデジタル化は国会図書館も未着手で図書館界では先行例が少ない。国立国会図書館をはじめとした他機関の貴重書の電子化事例などを参考に、関連業者からのヒアリングも実施し、予算や資料の性格を鑑みつつ画素数とカラー/グレースケールなどの仕様を決定した。

また電子化で問題となるのは、長期的な保存と利用可能性をいかに担保するかである。期待寿命が 100 年とも 500 年ともいわれるマイクロフィルムと異なり、長期保存用の DVD 等の使用期限は約 30 年とされている。デジタル化したファイルの保存方法も DVD、ブルーレイディスク、ハードディスクなど選択肢があり、どういう形での保存や管理が適切か、費用の面、管理の面から検討し、決定する必要があった。これについては図書館やデジタルアーカイブの専門家へのヒアリングやオンライン講演会への参加等を通して情報収集し、最終的に、業務委託先からブルーレイディスクで納品された電子ファイルを、電子化資料格納用に準備したハードディスクに書き込むこととした。閲覧には業務委託先から納品されたブルーレイディスクを提供し、HDD は保存用として、2 台に同じデータを保存して冗長化し、年 1 回データ可読性等のチェックを行うこととした。

今後の課題としては、こうして作成したマイクロフィルムや電子媒体の新聞をいかに劣化させずに保存していくかである。マイクロフィルムでも電子媒体でも一定の環境 (温湿度管理) が長期保存の前提となるが、四季の変化に富んだ日本の気候、また保管庫自体の劣化などに留意しながら保存環境を整えていく必要がある。

また現段階での電子化の問題点は、マイクロフィルム化と比べてコマ単価が高いことである。今回は予算の関係で、限られたタイトルを試験的に電子化するにとどまった。もう 1 つの課題は、電子化の最大の利点が OCR によるテキスト化と検索機能の付与と考えられるにもかかわらず、今回は予算とマンパワーの関係で OCR によるテキスト化を実施することが出来なかった点にある。他機関などでの実施例を見ると、一般の文書であれば現在使われている OCR ソフトで十分にテキスト化が行えるようなので、新聞の紙面でも、人手を介在させずに OCR により一定の水準のテキスト化が行える時代が来ると考えられる。その際には、今回電子化した新聞のテキスト化を行い、検索可能としていきたい。

(3) 資料情報の公開

アジ研図書館で所蔵しているイラクの新聞については、アジ研図書館 OPAC だけでなく、全国

の書誌が収録される総合目録へも書誌を搭載することが、資料の見える化とより広範な利用のためには極めて重要となる。当初、既にアジ研図書館の新聞情報を掲載していた「全国新聞総合目録データベース」(「国立国会図書館サーチ」の一部)に、本プロジェクトで整理した新聞の情報も集約することを予定していたが、2021年に当該サービスが終了することとなった。代替の総合目録としてCiNii Books(国立情報学研究所(NII)が運営する全国の大学図書館等が所蔵する資料の総合目録)への収録が望ましいと考えたが、CiNii Booksへの書誌の登録では、NIIの定める厳密な目録規則に即した記述が求められる。新聞をはじめとする逐次刊行物は、タイトルの変遷などを細かく調べる必要があり、アジ研図書館でも新聞についてはCiNii Booksへの書誌の登録は行っていなかった。しかしながら、上記国立国会図書館のサービス終了に伴い、アジ研図書館は新聞のCiNii Booksへの登録を進めることとなったため、本プロジェクトでもこれに従い、CiNii Booksに新聞の書誌を登録することとした。イラクの反体制派の新聞は、現地政府との関係性などにより、活動拠点を移動させることもあり、それが発行地の変更といった書誌情報にも影響を及ぼす。所蔵している巻号が異なるため、参照しているアメリカ議会図書館の書誌情報と、アジ研図書館所蔵の原紙に書かれた情報が異なる場合も時折あったが、手元の現物に即して書誌を作成し登録を行った。これによりこれまで非公開だった新聞も含めて、世界的にも貴重なアジ研図書館のイラクの新聞コレクションの公開を実現した。

なお、OPACやCiNii Booksへの書誌情報の登録とは別に、本プロジェクトで明らかとなったフセイン政権下のイラクの新聞タイトル、およびそれらの世界での所蔵状況、資料の性格等に関する調査結果についても、ウェブサイトで公表していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山尾 大 (YAMAOK Dai) (80598706)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授 (17102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	能勢 美紀 (NOSE Miki)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所	
研究協力者	吉岡 明子 (YOSHIOKA Akiko)	一般財団法人日本エネルギー経済研究所	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関